

4 高等部の実践

		前期				後期							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教科別の指導	音楽	「音楽を楽しもう」 歌、ダンス、パラバルーン（鑑賞、表現）				「音楽を楽しもう」 歌、ダンス、楽器演奏、パラバルーン（鑑賞、表現）					「音楽を楽しもう」 歌、楽器演奏、パラバルーン（鑑賞、表現）		
	保健体育	「いろいろなスポーツをしよう」 ランニング、体操、ボール投げ、ボッチャ、水泳（体づくり運動、球技、水泳、陸上競技）				「かっこいい高校生になろう」 清潔、人との距離感、身だしなみ（保健）							
						「いろいろなスポーツをしよう」 ランニング、ストレッチ、卓球バレー、風船バレー、バランスボール（体づくり運動、球技、陸上競技）							
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	「朝の会・終わりの会」 名前呼び、歌、予定確認、当番活動、振り返り											
		「給食」 清潔、準備、片付け、食事											
		「身辺自立」物の準備、片付け、排泄、衣服の着脱											
	生活単元学習	「春の風を感じよう」 教室づくり、旗づくり、学級目標、テーマソング決め、畑づくり 遠足事前、事後		「1組カフェを開こう」 ・いろいろな飲み物を知る、調理活動、お店を開く		「やってみよう！学校祭」 事前学習、販売練習、配り活動、公共施設利用、動画撮影、接客練習、事後学習			「星とプラネタリウム」 制作活動、発表会		「English かるた」 かるた、英語あそび		「一年間を振り返って」 振り返り学習
		「1組農園を作ろう」 苗を買う、畑作り、観察日記、収穫、調理実習											
		「宿泊学習に向けて」（2年） 交流、事前学習、事後学習				「修学旅行に向けて」（2年） 交流、事前学習、事後学習				「卒業を祝う会に向けて」（1、2年） 当日の運営、会場設営、当日までの準備			
領域別の指導	特別活動	全校（入学式、始業式、避難訓練、終業式）				全校（始業式、学校祭、芸術鑑賞、終業式）					全校（始業式、校外学習、卒業式、修了式）		
		学部（新入生歓迎会、校外学習、進路実習、宿泊学習（2年）、台湾からの高校生交流）				学部（修学旅行、（2年）交流のひろば）					学部（卒業生を祝う会）		
		クラブ（クラブ自治説明会、各クラブ活動、年間活動まとめ）											
		自治（クラブ自治説明会、各クラブ活動、年間活動まとめ）											
	自立活動	ホームルーム（クラス開き、1週間の振り返り（訪問生と Web 会議）） ホームルーム（1週間の振り返り（訪問生と Web 会議））											
		個別課題 マッチング、手指操作、言語の概念、ストレッチなど（健康の保持）（人間関係の形成）（環境の把握）（身体の動き）（コミュニケーション）											
		運動機能 個々の実態に応じた身体に対するアプローチ（健康の保持）（身体の動き）											
総合的な探究の時間		「春を探そう」 校内、校外散策	「遠足に向けて」 交通ルールについて、校外散歩（光明寺方面）、公共施設の利用について			「公共施設を利用しよう」 施設利用について、交通ルール、公共交通機関利用について、校外散歩（光明寺方面）			「年賀状を出そう」 風景撮影、年賀状のレイアウト作成、ポスト投函		「進路に向けて」 進路について、実習に向けて、実習報告会		

[illegible]

単元名	生活単元学習「1組カフェを開こう」	教科・領域の視点	社会、美術、 家庭科、道徳 自立活動
学部クラス	高等部1組（1年、2年）	（教科・領域等関連表参照）	
＜本単元でつきたい力(単元設定理由)＞			
本学級は、身体面、発達段階的にも幅広い生徒と一緒に活動をしている。本単元では、進路や生活年齢にも考慮し、「カフェ」をテーマに取り組む。生徒は人と関わることが好きな生徒から、学級やグループ以外の人との関わりが少ない生徒など実態に違いがある。人と関わることが好きな生徒も、適切な距離やTPOに合わせた言葉使いに課題がある。今回のカフェでは、生徒達が見通しや期待感がもてる調理を題材とし、得意な取組を他の人たちに振る舞うことで、人とのやり取りを「楽しい」と感じられるようにする。また、「店員」という立場から「どうぞ」「また来てください」「ありがとうございました」などの正しい言葉使いや人との関わりを経験できるようにする。			
＜前単元とのつながり＞			
前単元、他の授業を含め「人との関わり」を大切に取り組んできている。本学級の生徒は、障害の程度が重度のためにどうしても受け身であったり、人との関わり方が適切でなかったりする生徒が多い。4月から学級、グループとの人との関わりを深めているが、少しずつ人間関係を広げていけるようにしたい。			
＜共生社会へのつながり＞			
卒業後は、様々な人の支援を受けながら生活することを見据えて、正しい人との関わりや感謝する気持ちなどを育てたい。活動に制限が多い生徒もいるため、経験していないことがたくさんある。そこで、本単元をとおして、新しい場所、新しい物に触れていくことで卒業後の余暇や暮らしの質の向上に繋げていきたい。			
＜単元目標＞			
(1) 色々な物や道具を使いながら調理活動や製作活動に取り組む。（知識及び技能） (2) 人からの関わりを受け止め、それぞれの役割を果たしてお店屋さんをすることができる。 （思考力・判断力・表現力等）			
＜単元目標の評価規準＞			
(1) 色々な道具を使って、調理や製作活動に取り組むことができたか。（知識及び技能） (2) 色々な人からの関わりを受け止め、役割を理解して活動することができたか。（思考力、判断力、表現力等）			
＜児童生徒の実態と目標＞			
児童生徒名	実態(単元内容と絡めて)	個人の単元目標	手立て
A (2年)	脳性麻痺。身体の緊張が強いが、調整しながら道具を使う活動に取り組むことができる。人との関わりを楽しむことができる。「カフェ」に対するイメージはあるが実際に利用する経験は少ない。事前に活動内容を提示することで、見通しと期待をもって活動ができる。	- 指導者の言葉や手順表から、できあがり期待したり、自分で工夫したりしながら作業をすることができる。 - 自分の役割を理解し、お店屋さんの店員をすることができる。	- できあがりイメージできるように、手順カードや見本を見せる。 - 生徒がやりたい内容を選択できるように、実際に役割を見せながら説明する。
B (1年)	難治性てんかん。体調により覚醒レベルが低い、場面の雰囲気や人との関わりを感じることができる。 カフェに行くことや色々な飲み物を飲む経験は少ない。スイッチなどは自分の意思で手を動かして押すことができる。	- 食材の匂いや道具の感触に触れ、物の違いに気づくことができる。 - お店屋さんの店員役をとおして、色々な人からの関わりを受け止め、自分の気持ちを表現する。	- 調理に取り組む前に、食材、道具などを指導者と一緒に触れる時間を設ける。 - 担任以外と関わる時間を設ける。

C (1年)	視覚障害（全盲）。物を触ることや道具を使う経験を多くしてきている。初めて取り組む内容や一度苦手と感じたことに抵抗感が強い。家庭で色々な場所に出かける経験を積んでおり、お店でのやり取りもスムーズに行うことができる。	・色々な物に触れることや道具を使うことで動作や物の概念を広げることができる。 ・お店を開くことで、色々な人と関わることができる。	・使う道具、素材などを使用前に指導者と一緒に触れるようにする。動作については、イメージをもてるように、オノマトペを使用する。 ・場のイメージをもつことができるように、誰が来たか、どこに居るかを伝える。
D (1年)	知的障害。活動の切り替えをスムーズに行うことに課題があるが、スケジュールなどの視覚支援を使うと自分なりに見通しをもつことができる。手先が器用で、道具を使って一人で取り組めることも多い。家庭で色々な場所に出かける経験を積んでおり、お店でのやり取りもスムーズに行うことができる。	・手順表を見て、調理活動や製作活動に取り組むことができる。 ・お店屋さんの活動をとおして、自分の役割がわかる。	・イラストや写真を使用したカードを手元に置き、手順を提示する。 ・イメージをもてるように、カフェの役割内容を実際に見せる。

単元計画表

次 (時間)	学習活動	評価規準
1次 (5時間)	＜カフェの準備をしよう＞ ・色々な飲み物を知る。 ・カフェの準備をする。 ・招待状を作る。	・色々な飲み物を飲み、匂いを嗅いだ後で、感じたことを自分なりに表現できたか。 ・指導者と一緒に、製作活動に取り組むことができたか。 ・招待する人のことを考えて、招待状を作ることができたか。
2次 (6時間)	＜ジュースを作ろう＞ ・バナナジュースを作る。	・材料の匂いや感触を感じ、感じたことを自分なりに表現できたか。 ・手順を理解し、調理活動に取り組むことができたか。
3次 (4時間)	＜カフェを開こう＞ ・開店準備、調理活動、片付けをする	・自分の役割を理解し、お店屋さんの活動に取り組むことができたか。 ・学級以外の友達や指導者からの関わりを受け止め、自分なりに気持ちを表現することができたか。

＜この単元で身についた力＞	＜次の単元に生かせる力＞
・手順表などの視覚的支援を使いながら、調理や製作の工程を理解し取り組むことができた。 ・色々な食材や道具に触れ、名前や用途や特徴を理解することができた。 ・人との関わりをとおして、人とやり取りをする力がついた。	人とやり取りする力については、本単元の力を基礎に、学級、学部を越えて関わりを広げられるようにしていく。また、後期に控えている体験実習にも繋げていく。 また、個々の基礎的な力の積み上げを、家庭に伝え生活に汎化できるようにしていく。

「喜びをともにする授業」～多様性は可能性～



児童生徒の変容エピソード

	写真	児童生徒の様子
一次		プレゼント、カフェの看板作り、BGM、自分の名札などお店で使う道具を一つずつ作成していきました。Cさんは、招待状作りの場面では「〇〇先生に来て欲しい」「△△さん呼びたい！」と友達や先生の名前を具体的にあげて、期待感を持って取り組んでいる様子が見られました。他の授業で取り組んでいる製作活動の方法を用いることで、見通しをもって取り組むことができました。
二次		初回の授業から手順表を用意して臨みました。Dさんは調理には関心が高い生徒だったので、手順表を最初から最後までめくりながら手順を確認している姿が見られました。2回目以降になると手順をしっかりと覚えていて「次はシュッシュ（消毒）やな」「包丁かしてください」など次の活動に必要な道具などを予想して取り組む姿が見られました。
三次		一つずつ準備を重ねることで「いつカフェ、オープンする？」と尋ねる姿が見られました。カフェをオープンし、Aさんは招待した先生や友達が来ると、「いらっしやいませ」「どうぞどうぞ」「〇〇先生見ててな」と言って普段よりやる気を出して取り組んでいる姿が見られました。1回目のカフェが終わると「また来るかな？」「喜んでくれてたな」と笑顔で感想を言う姿も見られました。

＜単元全体をとおして＞

総合的な探究の時間とリンクさせ実際に地域にあるカフェに行くことから単元のスタートを切りました。後日、写真を見ると「いったなー！」と嬉しそうに言っている生徒もおり、本物を実際に体験することで生徒達の内面に訴えることができ、よりやりたい気持ちが引き出せたように思います。

今までは、日本茶しか飲んだことのない生徒が「紅茶を飲んでみたい」とチャレンジしたり、カフェで飲めた飲み物を家庭でも飲んでみたりと生活の広がりも見られました。

